

〇ブレンド成分の効果

*アロエ

古代から薬草として使用され下記の効果が認められている。
効果 皮膚の保湿効果 皮膚の美白作用 育毛作用
創傷治癒促進効果 抗炎症作用 UV防衛作用
抗菌作用 風疹作用

*しそ

近年、その特異な生理活性機能が注目されています。特にインターフェロン誘起活性、抗細胞活性、ヒアルロニターゼ阻害活性、肥満細胞のヒスタミン遊離抑制効果などによる抗アレルギー作用が期待されます。

*よもぎ

ヨモギは、蒿もち・お灸のモグサなどとして身近に知られる薬草です。
また、傷の消毒薬や風疹効果を期待した蒸風呂としても利用されています。
最近では、ヨモギ抽出エキスにはアトピー性皮膚炎のかゆみとかかゆみによる不眠症の緩和作用があると報告されています。

*ヒバ

ヒバは昔からの言い伝えで、ぜんそくの人にはヒバ林に行けば症状が和らぐとか、ヒバの樹で造った家は、3年間は虫が寄り付かないとか、蚊が入らないとか、腐らないなどと言われてきた。また、魚や貝を運ぶ時に、ヒバの葉の防腐、殺菌作用を利用して包んでいた。

*コラーゲン

皮膚の70%以上を占める線維状蛋白質で、保湿、風荒れ防止の化粧品材料です。

*スクワラン

人の皮膚の角質層の外に存在し、角質層の水分の調節を行う。
肌に必要な成分を補給するための化粧品の原料として有用なものです。

*キトサン

カニやエビの甲殻の構成成分から得られ、保湿剤としての用途の他に生体親和性が高く、拒絶反応が少ないことから、創傷保護などの外科治療にも広く利用されてきました。
キトサンには細胞を賦活し治癒を早める効果があります。

*NMF (Natural Moisturizing Factor)

角質層に含まれ、水分保持の重要な役割をしている成分

*ヒアルロン酸

タンパク質と結合して我々の体内のあらゆる部分に存在している。結合組織気質の主要な構成成分で、細胞間隙に水を吸込みゼリー状となって、細胞組織の保護および構造の維持、細菌感染に対する防御などの生理機能を果たしている。物性として最も特長的なものに、皮膚の水分を捕り、潤滑性を与える保湿性にある。

*ヒオウギ

アヤメ科の多年生草木

女性ホルモンであるエストロゲンと同じ働きをする。女性ホルモンには、卵巣から分泌されるエストロゲンとプロゲステロンの2種類があり、肌の潤いと深くかかわりをもっているのが、エストロゲンである。このエストロゲンが、皮膚組成のコラーゲンとヒアルロン酸の合成促進に関与している。ヒオウギエキスにも、コラーゲンとヒアルロン酸の合成促進作用があり、女性ホルモンのエストロゲンと同様の作用を持つ。

*トレハロース

砂漠で生息するイワヒバ。何日も何日も雨の降らないその土地で、生きながらえている植物です。乾燥が進んで葉が小さく縮こまった状態が続き、見た目には枯れてしまったと思われても、1度雨が降って水分を得ると、葉を青々と広げ、瑞々しさを取り戻すことができます。このほか、昆虫のクマムシ類、水中生物のフムシ類また酵母などにも同じ現象が見られます。

これらの生物に共通していることが、どの生物にも高濃度のトレハロース分子が存在する事が確認できたのです。

水には組織を支えるはたらきがあります。トレハロースは、失われた水分のかわりに組織をささえて、これらの生物のいのちをつなぎとめる役目を担っていると考えられています。